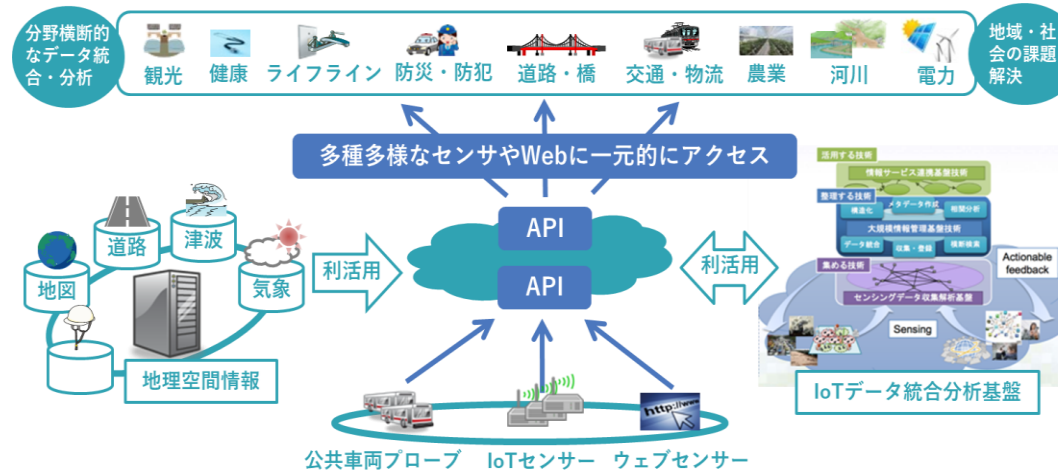


スマートIoT推進フォーラム 異分野データ連携プロジェクト

2019年度活動報告

異分野データ連携プロジェクト
2020年3月

【目的】 IoTデバイスやウェブ等からのデータ、国・地方自治体等が公開するオープンデータ、さらにはユーザ自らが保有するデータとの新しい連携を目指して、異分野ソーシャルビッグデータの横断的な流通・利活用を行うための課題を検討する



【主な活動】

- 異分野データ連携の在り方について、基盤技術、社会実装の両面から課題をまとめ、課題を整理・体系化した技術報告書を作成
- 事例紹介や特定のテーマごとにディスカッションを行う会合を実施
- 2016年9月発足

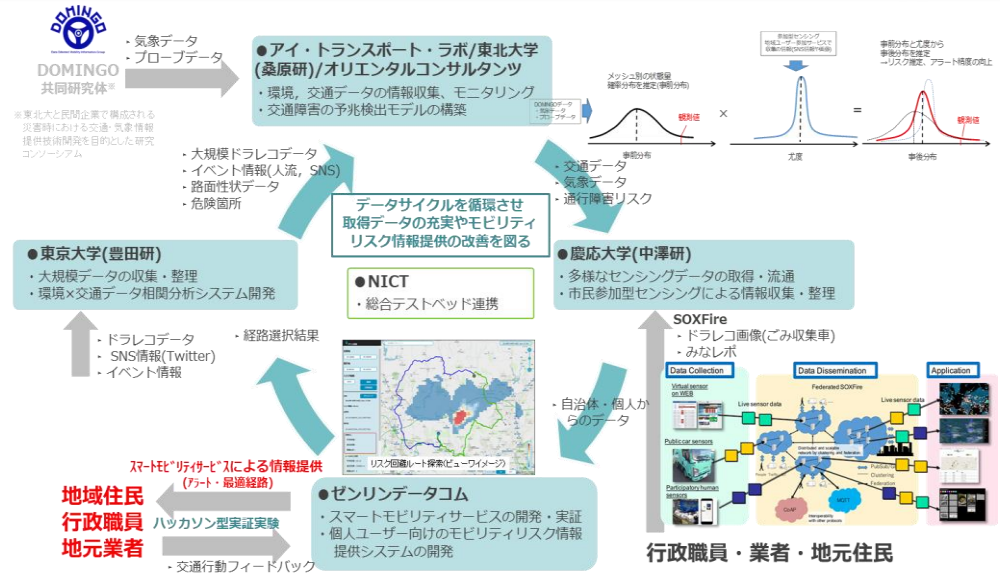


異分野データ連携技術報告書
(2017年6月、Amazon Kindleなどで電子出版)



2019年度の主な活動

- 異分野データ連携によるスマートモビリティ基盤の技術検討
 - 豪雨・豪雪・地震災害関連のデータをNICT JOSEサーバに格納し、車両軌跡やメッシュ統計量を用いて災害時の車両挙動を定量的に分析する技術
 - 運転操作、道路地図、車載カメラ画像データから、交差点における最近の事故発生の有無を推定する技術や、SNS・Webを用いた混雑予測技術
 - Sensorizerによる既設Webサイトからのリスク情報取得と配信(警報・注意報)
 - 豪雨災害時のモビリティリスク情報の指標化とカーナビアプリ利用
- プロジェクトメンバーの意見も踏まえ、2020年度にNICT委託研究と連携し技術評価を行う



- ユーザ参加型のデータ連携開発の実践 (NICT xDataプラットフォームと連携)
 - SARデータ分析チャレンジ(2019年4~5月): SAR観測データとGISデータを組合わせた災害リスクマップ生成プログラムのオープンソース開発 (GIS・IT、建築・土木等の研究者・技術者・学生 30名参加) <http://www.xdata.nict.jp/events/sardac/>
 - MedeaEval2019 Lifelogging for Wellbeingタスク(2019年5~10月): 環境データやライフログデータ等を対象に、相関データ検索や環境品質予測手法を開発するベンチマーキングタスクを実施。欧州、中国、東南アジア等から11チームの研究者らが参加 <http://www.multimediaeval.org/mediaeval2019/wellbeing/>



- データ利活用標準化団体RDA活動
 - Dynamic Data Citation標準化勧告に基づき、データ連携の処理フローを追跡・可視化するData Provenance技術*を基本実装し、Data Citation WGに技術要件を提言
 - *) データの起源や処理履歴などの来歴情報を収集・管理・検証する技術

